

▲▽海の道▲▽ ⑥ 人形浄瑠璃の国「とくしま」

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

阿波人形浄瑠璃は室町時代中期に成立

阿波は「人形浄瑠璃の国」といわれる

江戸時代に徳島郡領だった淡路島の人形座の人々が全国を巡業して回ったことや、
人形首^{かしら}を阿波の細工師が作ったことによる。その伝統は今に伝えられ、平成 11(1999)年
12月には阿波人形浄瑠璃が国の重要無形民俗文化財に指定された。

人形浄瑠璃は江戸時代初期の17世紀初めに、語りである浄瑠璃と人形、三味線が結び付
いて生まれた芸能だが、語りとしての浄瑠璃の発生は室町時代にまでさかのぼる。

浄瑠璃の発生は室町時代中期の15世紀中ごろとみられるが、文献に「浄瑠璃」の名称が
最初に出てくるのは連歌師・宗長の日記で享禄4(1531)年に「駿河の宇津山に旅したとき
『小座頭あるに浄瑠璃を歌わせ』興にのって酒を飲んだ」とある。